

平成27年

3月8日(日) 10時00分～

会場 大分県立社会教育総合センター
別府市野口原3030-1
(ビーコンプラザ向い)

主催 大分県教育委員会
とよのまなびコンソーシアムおおいた

共催 国東市・日出町・日田市各教育委員会

10時00分 開会行事

10時30分 シンポジウム

「郷土の誇り!『豊後三賢』を語る
～今こそ生かそう!三賢の思想～」

コーディネーター 大分県立先哲史料館
館長 佐藤 晃洋 氏

シンポジスト 国東市三浦梅園資料館
研究員 濱田 晃 氏

大分県立国東高等学校双国校
教諭 田本 政宏 氏

日田市成宜園教育研究センター
研究員 深町 浩一郎 氏

12時00分 「豊後三賢」関係資料展示

13時00分 「豊の国学」リレー講演会
(※詳細裏面)

15時45分 閉会行事

問合せ 0977-22-7763

大分県立社会教育総合センター
URL <http://manabi.oita-ed.jp/>
Mail nb3030@ctb.ne.jp



「ふるまなび」学 「豊の国学」 ジョイント講座

「おおいた学びの輪推進事業」「とよのまなびコンソーシアムおおいた主催事業」連携企画



国東市三浦梅園資料館提供



個人蔵 県立先哲史料館寄託



公益財団法人廣瀬資料館蔵

入場無料

「ふるさと学」とは？

ふるさと大分の魅力や特色について、総合的・体系的に学ぶことにより、郷土への興味・関心や愛着を深めていただくために大分県教育委員会が実施している地域学講座です！



「豊の国学」とは？

豊の国の歴史的な「人」「文化」「自然」「産業」についての学びを提供することによって、「豊の人」育ちを支援するために大分県内の8つの大学等が連携して実施している地域学講座です！

とよのまなびコンソーシアムおおいた主催 「豊の国学」リレー講演会 プログラム

13:00～ 開会行事

13:05～ 文化 **「大分県の中の朝鮮半島」** 講師：別府溝部学園短期大学 学長 溝部 仁 氏
宇佐八幡宮の出発点ともいわれる御許山と朝鮮・中津大貞八幡宮と朝鮮との関係や宇佐八幡宮最大の祭祀である行幸会と朝鮮について考察します。

13:35～ 文化 **「世界から見た国東半島—日本の世界農業遺産—」** 講師：立命館アジア太平洋大学 助教 VAFADARI MEHRIZI, Kazem 氏
国東半島での農業は、2013年5月に次世代に継承すべき伝統的農業システムとして、「世界農業遺産」に認定されました。世界の農業遺産と国東を比較しながら資源循環の文化を再活性化の重要性について講義します。

14:05～ 産業 **「大分県救急医療体制—地域格差是正の切り札！ドクターヘリによる広域救急医療体制と医療圏連携—」** 講師：大分大学 診療教授 石井 圭亮 氏
大分県においては、著明な医療の地域格差を是正するため、救急医療体制の構築を計画・実行してきました。急激に変化を遂げる医療現場から、ドクターヘリによる広域医療体制と医療圏連携について講義します。

14:35～14:45 休憩

14:45～ 産業 **「大分のイメージと観光」** 講師：日本文理大学 准教授 廣田 篤彦 氏
県外から見た大分のイメージや他県の観光や開発の事例を比較・分析することにより、大分の観光と将来の方向性について考えます。

15:15～ 文化 **「大分の科学啓蒙活動と科学館」** 講師：大分工業高等専門学校 教授 工藤 康紀 氏
おおいた県では様々な「科学啓蒙活動」が行われています。それらのいくつかを紹介し、「青少年のための科学の祭典大分大会」も紹介します。大分には、いわゆる「科学館」がないことの現状を知っていただきます。

15:45～ 閉会行事

ふるさと大分が誇る偉大な先哲「豊後三賢」

近世の大分を代表する人物に「三賢」と称される三浦梅園・帆足万里・広瀬淡窓がいます。

三浦 梅園 (みうら ばいえん) 享保8(1723)年～寛政元(1789)年



三浦梅園は本名は晋(すずむ)、梅園は彼の私塾名という。短期間杵築の綾部綱斎、中津の藤田敬所に師事した以外はほとんど生地富永村(安岐町)で医業のかたわら塾生を教え、独自の条理学を確立。梅園三語とよばれる『玄語(げんご)』『贅語(ぜいご)』『敢語(かんご)』など著作も多い。天文学にも通じ、自作の天球儀がある。天文・解剖学者の麻田剛立(1734-1799)は、師である綱斎の子で梅園より11歳年下であるが、梅園も天文学について教えを受けたという。

帆足 万里 (ほあし ばんり) 安永7(1778)年～嘉永5(1852)年



梅園の門弟である脇蘭室(1764-1811)に学んだ帆足万里は、儒学のみならず自然科学、医学等にも才能を発揮、天保3(1832)年には日出藩の財政建て直しのため家老職を引き受けている。ほぼ独学で蘭語を習得し、蘭書を参考に当時としては最高水準の西洋自然科学書『窮理通(きゆうりつう)』八巻を著す。晩年には私塾西嶋精舎を開く。門下からは毛利空桑(1797-1884)、米良東嶠(1811-1871)、岡松壘谷(1820-1895)らの逸材が輩出。

廣瀬 淡窓 (ひろせ たんそう) 天明2(1782)年～安政3(1856)年



儒学者で漢詩人・教育者の廣瀬淡窓は、日田の掛屋の長男に生まれるが、病弱であったため家業を弟の久兵衛(1790-1871)に継がせ学問に専念。文化4(1807)年に私塾桂林園を発足、後に移築して咸宜園と改称した。淡窓の教育方針には、入門時に年齢・学歴・身分のすべてを奪い去る三奪法や塾生の成績を毎月公表して努力を促す月旦表など独自の工夫がなされ、全国から多くの門下生が集まり、多くの人材を輩出した。著作には「淡窓日記」「懐旧楼筆記(かいきゅうろうひつき)」などの日記や「約言(やくげん)」「迂言(うげん)」「儒林評(じゅりんひょう)」、漢詩集「遠思楼詩鈔(えんしろうししょう)」などがある。



アカデミアの会による「地産地消弁当」販売があります！
★1個 400円 (※ 数に限りがあります)

